

同窓会のあゆみ



今年で、同窓会も創設3年目を迎えました。そこで同窓会設立準備から今日までの経過をご報告したいと思います。

諸般の事情で設立ができていた本校同窓会であったが、2期生の卒業を契機に設立することとなった。

- 昭和55年2月9日 一期生委員会
- 昭和55年3月2日 一期、二期合同委員会
3月2日の委員会で会則原案や設立総会のもち方について話し合いがなされる。
まだまだ不備な点が多い中、とにかく設立しなくてはならないという気持ちが高まってくる。
- 昭和55年3月10日 設立総会 光丘高校体育館
会則などが承認され、本校同窓会が設立する。仮の役員にて、その後の事務が行なわれる。
- 昭和55年7月2日 委員会 練馬「アンデス」
母校への行事参加ということで、光陵祭へ参加が決まる。
- 昭和55年9月20、21日 光丘高校、光陵祭期間中
生物室を使用させてもらい、談話室を設ける。
- 昭和55年10月5日 第2回総会 光丘高校会議室
出席者少なく、今後に残す。
- 昭和55年10月11日 役員会 練馬「アンデス」
- 昭和56年1月20日 光丘高校会議室
同窓役員と3期同窓委員との初顔あわせ。
- 昭和56年3月10日 3期生入会説明会 体育館
- 昭和56年5月12日 役員会 練馬「アンデス」
第3回総会の準備について話し合う。立食形式とするなど具体的なことが決まり係分担をする。

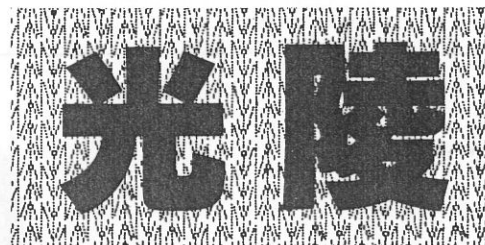
副会長 木田明男

●昭和56年5月31日 第3回総会 光丘高校体育館
光丘高校の体育館に200名以上の会員を集めながらに会がおこなわれた。役員が承認され、ここに同窓会としてのある形が出来上る。またかねてからの念願であった同窓会名簿が出来上り、出席者には当日会場で配られる。(欠席者には後日郵送する)なお、当日の会場設営のために在校生バレー部諸氏の協力があったこともわすれられない。

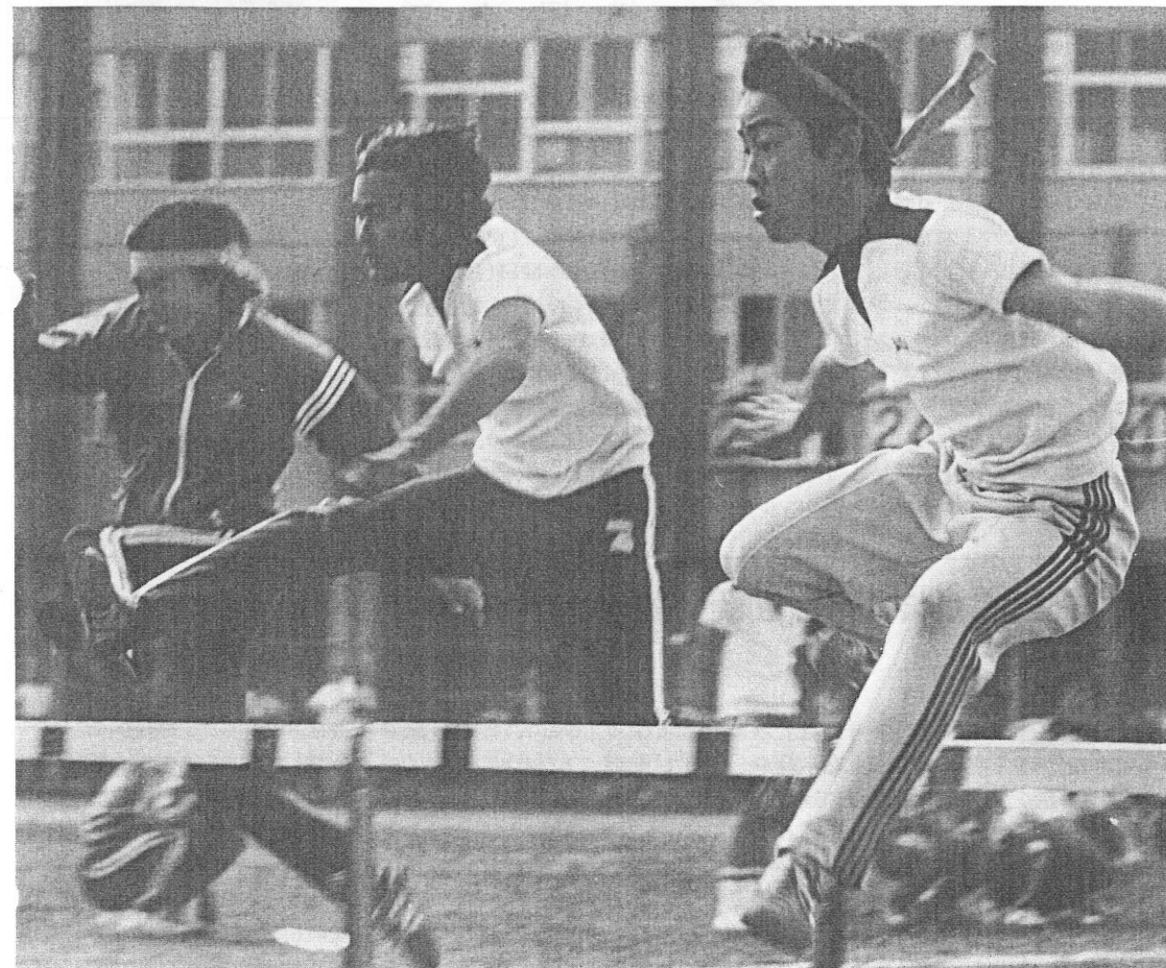
- 昭和56年7月30日
総会欠席者に名簿を発送(練馬郵便局発信)
- 昭和56年9月26、27日
昭和55年度同様、母校行事への参加ということで光陵祭に参加する。3期同窓委員が活躍する。
- 昭和56年10月17日 文化祭反省会 練馬「アンデス」
準備に手落ちがあった。同窓会の母校行事参加の意義などが話しあわれる。次年度へ問題を残す。
- 昭和56年11月8日 役員会 光丘高校会議室
仕事の分担を明確にし組織の運営の円滑を目的に、常任委員会を設立することが決まり人選が行なわれる。また4期生受け入れの準備について話し合われる。
- 昭和57年1月20日 光丘高校生物室
4期生同窓委員との顔あわせ。
- 昭和57年4月2日
第4回同窓総会への準備について話しあわれる。
以上のような経過をたどって今日に至っています。しかしながらまだまだ、不十分な点があるのは皆様、ご存じのとおりでございます。今後も、いろいろご意見をいただき、より良い同窓会にして行きたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。



都立光丘高校 同窓会だより 第1号



昭和57年6月1日発行
発行・編集
東京都立光丘高校同窓会
〒176 練馬区光ヶ丘1番地
TEL 03 (977)1501



【目次】

- 同窓会会報創刊にあたり.....(2)
- 同窓会会報の発刊を慶ぶ.....(2)
- 最近のクラブ活動.....(3)
- 故小沢先生の公務災害認定.....(3)
- 同窓会のあゆみ.....(4)
- 編集後記.....(4)

お元気で!
昭和五十七年四月一日付で次の各先生が離任されました。

- 大森義宏先生(教頭) 田園調布高校へ
- 黒沢正信先生(数学) 板橋高校へ
- 寺島文代先生(保体) 館高校へ
- 小川博敬先生(英語) 清瀬高校へ
- 野辺由郎先生(社会) 北高校へ

第三期卒業 計報
北 奈智夫君
七組(富山学級)

——会員の皆様——

昨年、同窓会名簿第1号を発刊しましたが、その後、住所、進路等に変更のありました方は学校内の同窓会事務局の方までご連絡下さるようお願い致します。

訂正をお願いします。

昨年、発刊しました同窓会名簿の表紙の学校電話番号がまちがっていますので訂正の上ご利用下さい。

誤 正
971-1501 → 977-1501

編集後記

念願の同窓会報がやっとの思いで完成した。時間と記事の不足により当初の計画が、大幅に縮小されるなど、だいぶ苦労はしましたが、顧問の奥井、藤田両先生、木田、西田両副会長の多大なる協力により、何とか発行にこぎつけることが出来ました。会員の皆様、同窓会総会の感想やお気付けの点がございましたら光丘高校同窓会広報委員会まで一紙一紙下さいますようお願い申し上げます。投稿もお待ちしております。

広報担当 岡田知久

同窓会会報創刊にあたり

会長 横塚 吉昭



昭和57年4月1日付をもって第4期の卒業生約360人が、新たに同窓会に加わり同窓会会員も約1,500人の大世帯となりました。そしてこの度、この同窓会会報を創刊することが出来た事は、誠に欣賀に堪えません。

これもひとえに、会員の皆様の御協力のたまものと存じております。

思えば、我々が母校光丘高校も早いもので昭和51年の創立以来6ヵ年もの歳月が過ぎりました。第1期生には、忘れようとも忘れることの出来ない成城の世田谷工業高校の仮校舎時代から、まだ校舎のみしか出来ていなかった光丘高校への移転、その後の施設の充実など、それぞれにさまざまな思い出がございます。が、しかしこれを思い出だけにせず、よい経験として、また光丘高校の良き伝統の基礎として、後々まで語り継がれていくことを強く望み、またその使命の一端になう同窓会委員も、この同窓会会報の発刊を機に、文化祭などの参加、各行事の充実をはかり、会員相互間の親睦をより深めてゆくとともに、光丘高校のこれからの発展と向上のために、自からの責任の重大さを、一人一人が十分認識自覚し、そして今後、益々努力してまいります。

今後とも同窓会会員の皆様の温かい御支援、ご協力を願って止みません。

同窓会会報の発刊を慶ぶ

校長 長谷部 作蔵

昭和55年3月10日に、「会員相互の親睦向上を図ると共に、母校の発展に寄与する」ことを目的として同窓会が創設されてから丸2年経ち、3年目を迎えたわけですが、去る3月11日に卒業された第4期生を加えて会員も千数百名に達し、ますます発展していることは、同窓会の目的を達成するうえで、大きな役割を果たすものと思われ、まことにご同慶に堪えません。更に今回同窓会会報を発刊される運びとなったことは、この上ない喜びに存じます。と同時に会報発刊を企画し、その実現に直接当たられた役員や委員の方々に敬意を表したいと思います。

ご承知のように、光丘高校は開設以来7年目を迎えました。最初の5年間は前校長宮沢康造先生を中心に教職員、生徒、父母の方々のご尽力とご協力のもとに向上の一途をたどり教育の成果を挙げられ、昨年4月1日に宮沢校長先生が都立志村高校にご転任になられたあとを私が引き継がせていただき、及ばずながら一層の発展を目指して微力を尽しているつもりです。その間、何人かの教職員が、あるいは他校に転出され、あるいは新しく本校においでになり、更に今年の4月1日付で、開設以来本校教育の充実のために営々として努力された大森義宏教頭先生が都立田園調布高校にご転任になり、その後任として平松利夫教頭先生をお迎えするなどの異動がありましたが、とにかく教育目標の達成に向かって一致協力しているところです。この4月には、新しい入学者選抜制度(受験生の希望を考慮したグループ合同選抜)のもとで合格した343名の生徒を迎え入れ、本校教育の一層の向上を期している次第です。

卒業生の進路状況も着実に成果が挙がっており、4期生については就職約30名、専門学校44名、短期大学72名、国公立大学約133名で、3期生も約70名が国私立大学に合格しております。

以上、最近の学校の状況をお知らせしましたが、今後年々発行される同窓会会報によって、光丘高校という学び舎から巣立たれた諸君が、母校の様子を知るだけでなく、同期生の、あるいは先輩後輩の情報や感想や意見などを交わすことを通して、心の交流が広く深く行われますようお願いしてやみません。同窓生諸君のご活躍とご多幸を更めてお祈りしながら筆をおきます。

最近のクラブ活動

生徒部 坪井 和夫

各クラブ共1期からの伝統を受け継いで、盛んに活動しています。特に運動部は、技術的にも年々向上しているのではないかと思います。

ここで文化部、運動部の近況について卒業生の皆さんに報告しておきましょう。

文化部

現在21の文化部があります。1期、2期の皆さんは随分ふえたと感じるでしょう。最初の頃全参クラブとして活動していたものが、課外クラブになったものがあるからです。マイコン・電算・囲碁・将棋・書道・茶道部が新設された部です。

ブラスバンドを顧問してくださった黒沢先生は板橋高校に転任いたしました。現在、音楽科の成瀬先生が担当されています。

演劇部も今までの顧問の野辺先生が北高校に転任された為、新しく社会科の阿部先生と英語科の下田先生が顧問をされています。

運動部

最近新設された運動部はありません。

対外試合も非常に活発で、いま各クラブは、インターハイ予選でがんばっています。この2、3年の成績をあげてみると、ラグビー部はベスト4まで勝ち抜いたのが、一昨年でした。

野球部は昨年、今年と都大会に出場しています。



サッカー部は、今年ブロックの決勝で惜しくも敗れましたが、都大会も近いでしょう。女子バレーは、現在も朝練をしてがんばっています。今年の大会では、ブロックで優勝しています。今年が楽しみという所でしょう。男子ハンドボール部は、昨年城北大会での優勝、研修大会での優勝、今年と同じく城北大会での準優勝、と成績を残しております。陸上部では昨年は関東大会に1名出場今年も2名関東大会に出場することになっています。関東大会での活躍を期待して下さい。運動部では、20の内ほとんどのクラブが、このように活躍しています。今年も18のクラブが合宿を計画し新人戦に意欲を燃やしています。卒業生の皆さんも、影になり日向になり応援して下さい。

故小沢奨先生の公務災害認定

1期生のみなさんがよくご存知の小沢先生の脳卒中死は公務災害と認定されました。これも卒業生のみなさんをはじめとする、非常に多くの人のご支援の賜物です。次に、この認定までの経過を簡単に報告します。

昭和52年3月20日 伊豆へ研修旅行中急逝された。先生は、クラス担任と進路指導・教務・入選業務・運営委員・財務委員・クラブ指導など一人何役と兼務され、その過労の蓄積が極限に達したものと考えられます。

昭和54年2月26日 公務性を信じつつ、「公務災害補償認定請求書」を基金東京支部へ提出したが、同年12月25日に公務外との通知がきた。

昭和55年2月25日 上通知を不服とし、教職員組合の運動の一環として支援を受けて、「再審請求書」を審査会へ提出した。

昭和55年7月26日 基金東京支部より、右公務外と認定した弁明書を受領。それに対する「反論書」を同年10月30日に、審査会へ提出した。

昭和57年1月22日「公務外の災害と認定した処分は、これを取消す。」の裁決書を受領した。

この間、ご遺族にとっては苦しい毎日と不安な日々であった。奥さまの次の言葉は忘れられません。「主人の仕事が正当に認められ、私たちはこれから胸をはって生活できます。」と。みなさんとともに少し胸を撫でおろすことができた想いです。

(文責 奥井利一)